

## 2020年度 学校自己評価シート (浦和実業学園中学校・中高一貫部)

目指す学校像	「実学に勤め徳を養う」(校訓)に則り、円満な人格、健康な身体、豊かな教養を備え、勤労と責任を重んじる国家社会の有為な形成者を育成する。
--------	---

重点項目	1) クラス活動や行事を通じて、豊かな人間性と学校での好ましい人間関係づくりを推進する。(徳育) 2) 実学教育の実践として行われている特色ある教育活動を通じて異文化理解を深め、学ぶ意欲を養う。(英語イマージョン教育の推進) 3) きめ細かな学習指導により、基礎学力の定着と実践的学力の伸長を図る。(学力の向上) 4) 6年間を見据えたキャリア教育を推進し、生徒一人ひとりの進路実現を図る。(進学実績の向上) 5) 一貫部全教職員で生徒募集活動に積極的に取り組む。(募集定員の確保と受験者数の増加)
------	---

達成度	A	ほぼ達成 (8割以上)
	B	概ね達成 (6割以上)
	C	変化の兆し(4割以上)
	D	不十分(4割未満)

出席者 懇話会委員 5名 学校関係者 6名
-----------------------------

学 校 自 己 評 価					
年 度 目 標		2020年度評価			
番 号	現 状 と 課 題	具 体 的 方 策	達 成 状 況		
達成度		次年度への課題と改善策			
1	○オアシス精神の重要性についての認識はあるが、その実践については個人差が大きい。発達段階の差はあるが、学年・クラスによる温度差なく取り組むことが肝要である。 ○道徳やHRにおいて、各時間における目標を生徒に理解させて、達成度を測ることが完全にはできていない。できる限り各時間内に達成度が測れると良い。 ○行事について、昨年の内容を踏襲することを優先するのではなく、行事の目的や意義に基づいて常に検証し、企画・運営する必要がある。	○生徒会を中心とした挨拶運動の継続はもとより、学校全体での取り組みであることを意識し、具体的な達成目標を立てて指導する。 ○行事の企画はコロナ禍による制限が多いが、6年間で grit (最後まで諦めずにやり抜く力)を養うことを目標とした指導計画に基づき、主任会を通じてその意義や目的を確認して進めることで、内容の充実・発展を図る。 ○部活動については、引き続き全員加入を目指す。 ○いじめ・体罰アンケートは、今年も実施する。	○コロナ禍により行事が制約される中、本来行事の中で実施する指導内容について、HRや道徳に割り振り、従来通りの達成度を維持するよう努めた。1年生で言えば、オリエンテーションキャンプの際に行っていたコミュニケーショントレーニング等が実施できなかったため、HRや道徳において実施した。 ○部活動の入部率については、コロナの影響は少なく、例年通りほぼ100%に達している。 ○いじめに関するアンケートは7月・12月に、体罰に関するアンケートは10月と2月の年2回実施し、実態の把握に努めてきた。 ○スポーツフェスティバルは実施できなかったが、10月25日に彩湖グラウンドで「スポーツ・デイ」と称し、感染予防対策を取った上でフットベースボール大会を実施した。	A	○挨拶などオアシス精神の実践には学年差や個人差があり、定着のための指導が必要である。道徳と行事の連携を確立し、どの学年でも自然に行動できるような指導が必要である。 ○教科としての道徳やHRについて、目標に対しての各自の達成度を各項目ごとに測り、記録していくことを最終目標として、そのための方策を確立していく。 ○中高一貫部としての行事を企画することで、1～6年までの一体感を作り、一貫としてのメリットを生かしていく必要がある。
2	○英語入試の導入後、高い英語力を持った生徒の入学が増加しており、英語における一斉授業が難しい。 ○ネイティブ教員数が8名に増えたが、各学年内における指導方針に教員による差異が生まれないような配慮が必要である。 ○生徒の英語4技能向上を図るため、学年ごとの目標に対しての達成率に目を向け、指導方法の工夫に繋げることが望ましい。 ○コロナ禍により、ハワイ短期留学の実施が見送られた。	○英語の授業における習熟度別分割授業を全学年で実施する。また、「話す力」の向上のために、学校生活全般において生徒が自発的に英語を話す機会を増やす取り組みをする。 ○検定科目の受験を積極的に促し、取得率の向上に努める。	○週5時間の英語の授業において、全学年で習熟度別分割授業を実施している。最上位のクラスはネイティブ教員による全て英語による授業で、20～26名の生徒で構成されている。 ○中学生の英語検定取得に対する意識も高まってきた。	B	○どの学年でも英語力の差が大きいことで、一斉授業が難しい。力を伸ばすために、授業で能力別クラスを今後も継続して作る必要がある。 ○生徒の英語4技能向上を図るため、8名のネイティブ教員の指導の方向性が統一されるようになってきたので、これを継続する。 ○コロナ禍の中であっても、ブリティッシュ・ヒルズ語学研修やハワイ短期留学の実施を視野に入れながら指導していく。
3	○全体指導ではフォローできない場面が多くみられるため、生徒個々の到達度に合わせて指導することが重要になる。6年間でレベル差が拡大することを見過ごすことはできない。 ○思考力、判断力、表現力の向上など、新しい教育に対応できるよう教員研修に力を入れる。	○生徒のレベルに合わせた個々の指導により、生徒に学業に対して前向きな姿勢を持たせ、学力レベルの底上げに努める。 ○継続的に教員研修会に積極的に参加し、その内容を教員間で共有し授業にフィードバックしていく。また、今年度も第三者授業診断は継続する。 ○探求活動に資するため、中学の初期段階から思考力、判断力、表現力を向上させることを念頭に置く。	○学年により学習活動に対する取り組み方や各科目の到達度に差異があるため、弱点を早期に発見し学年ごとに補強するよう取り組んだ。 ○第三者授業診断については今年で3年目になるが、11月上旬の5日間、光延栄治氏に依頼して実施した。また、授業アンケートも11月中に実施し、集計結果を授業改善に繋げることができた。	A	○生徒個々の指導の重要性とともに、生徒の自立を促す必要もある。個別指導の中に自主的に学習を始められるような指導も必要になる。 ○思考力、判断力、表現力の向上など、新しい教育に対応できるよう教員研修を継続して行うことが肝要である。
4	○自己の進路実現のために、最後まで努力する姿勢を身に着けている生徒が年々減少している中、教員からのアドバイスや励ましに応じて努力を続け、成果を得た生徒がいることを下級生にも伝えていくことが大切である。 ○職業体験等コロナ禍によりかなりの制限を受けることが予想される。	○コロナ禍による制限が大きい、外部講師の講演会を通じて、自己の進路に対して探求する心や正しい職業観を持つよう指導する。また、正しい職業観を養うため、職業体験にあたる新しい企画を考え、内容の充実を図る。 ○成績委員会を通じて全教員で一人一人の生徒の進学指導ができるように努める。	○今年は職業体験・福祉体験・社会見学等のキャリア教育関連行事がすべて中止になった。HR等でフォローしているが、実際の体験には及ばない。次年度にできることから実施したい。 ○ベネッセ学力総合調査の結果を元に中学校成績会議を12月16日午後実施し、各学年の現状を分析して今後の学習指導の目標を討議した。	B	○当初のレベルよりはかなり底上げができたが、結果としては国公立大の合格数が過去最低であり、受験指導への対策が急務となる。 ○コロナ禍により、職業体験等が実施できていなかった。従来の形式にこだわらず、キャリア教育を推進・維持していきたい。
5	○本校を志願する地元の割合が年々増加しているが、さいたま市立中高一貫校2校の希望者増により加速しているように見える。 ○継続して、地元を中心に本校の魅力を正確に中学受験生に伝えていく必要がある。	○地元の小学生を中心に企画している「英語であそぼう」「算数講座」については、募集活動に大きく関わっているため、これからも継続する。 ○適性検査型入試や英語入試の受験生の増加が、募集活動全体にも影響しているため、これらの入試の充実を図る。 ○来年度、川口市立高等学校附属中学校が新設されるので、その希望者の一部も取り込むための募集活動を行う。	○座学の算数講座は、9月26日、10月3日、17日、24日、11月7日の5回実施し、毎回盛況だった。一方、双方向コミュニケーションを基本とする「英語であそぼう」は今年度は実施できなかった。 ○学校説明会を7月から7回実施してきたが、各回とも開催の1週間前には定員満了になった。 ○川口市立高校附属中学の開校の影響、東京都立一貫校のお試し受験としての地位が確立したことから、適性検査型入試の受験生が増加した。本校を志願する地元小学生の割合は今年も増加しおり、結果として60名の入学者を得た。	B	○コロナ禍でイベントが縮小傾向であるが、算数講座や英語であそぼう等のは低学年に本校の教育内容を訴求できるイベントなので実施していきたい。 ○塾訪問等を活用し、地元を中心に本校の魅力を正確に中学受験生に伝えていく必要がある。

学校関係者評価
実施日 2021年6月19日
意見・要望・評価など
○コロナ禍で大変な中、先生方の取り組みには頭が下がる思い。 ○生徒の様子を見ていても、挨拶してくれるし表情が明るい。日々お世話になっており感謝している。
○中高一貫部は英語イマージョン教育により英語力の高い生徒が多い。そのためハワイ短期留学も相当充実したようだ。2年間中止になってしまったのは本当に残念だが、来年度は是非実施できるようにコロナが終息してほしい。
○第三者授業診断で全体的に標準以上の評価を得たことは素晴らしい。先生方の授業力を今後もキープして、引き続き生徒に還元してほしい。
○進学実績が今一歩ということだが、生徒がそれぞれの進路目標に向けて努力し、先生方がしっかりサポートすれば自ずと結果は出てくるので、頑張してほしい。
○広報活動をもっと充実させるべき。たとえば、ハワイ短期留学のプログラムは本当に素晴らしい。他校にはないこうした取り組みをHPなどで積極的に発信すれば募集活動につながるはず。